

## 第168回 定期演奏会

2/20[水]  
発売

優雅な旋律による散文的風景

### 2019/5/17(金) 18:45開演 (18:00開場)

■ J.S.バッハ：ブランデンブルク協奏曲全6曲

第1番へ長調BWV1046 第2番へ長調BWV1047

第3番ト長調BWV1048 第4番ト長調BWV1049

第5番ニ長調BWV1050 第6番変ロ長調BWV1051

トランペット／オットー・ザウター リコーダー／鈴木俊哉、田中せい子

※トランペット奏者が当初出演を予定しておりましたウーヴェ・コミシュケより変更になりました



オットー・ザウター Sabine Kierdorf



鈴木俊哉 Guido Grugnola



田中せい子 Ryuta Ito

## 第169回 定期演奏会

3/14[木]  
発売

古典的協奏曲への回帰

### 2019/6/14(金) 18:45開演 (18:00開場)

■ J.S.バッハ：チェンバロ協奏曲第4番イ長調BWV1055

■ J.S.バッハ：2台のチェンバロ協奏曲第3番ハ短調BWV1062

■ J.S.バッハ：3台のチェンバロ協奏曲第1番ニ短調BWV1063

■ J.S.バッハ：3台のチェンバロ協奏曲第2番ハ長調BWV1064

■ ヴィヴァルディ：調和の靈感作品3より第10番ロ短調RV580

■ J.S.バッハ：4台のチェンバロ協奏曲イ短調BWV1065

チェンバロ／築山菜以、木村恵理、細川和子



築山菜以



木村恵理



細川和子



指揮・チェンバロ 中野振一郎  
(168回～170回)

## 第170回 定期演奏会

4/18[木]  
発売

爽やかな水面に映る初夏の遊宴

### 2019/7/12(金) 18:45開演 (18:00開場)

■ ヘンデル：歌劇「セルセ」HWV40より序曲

■ ヘンデル：合奏協奏曲イ長調Op.6No.11HWV329

■ ヘンデル：組曲「水上の音楽」 第1組曲へ長調HWV348

第2組曲ニ長調HWV349 第3組曲ト長調HWV350

## ザコンサートホール

名古屋・伏見・電気文化会館

☎052-204-1133 名古屋市中区栄2-2-5

(地下鉄「伏見」駅下車、4番出口より徒歩2分)



やむを得ない事情で出演者・演奏曲目・曲順等が変更になる場合がございますのでご了承ください。

## 入場料

A席4,500円 B席3,500円 C席2,500円/学生席1,000円 (学生席は座席指定不可・指定の場合は一般価格の半額)  
セントラル愛知交響楽団事務局のみの取扱い

※未就学児入場不可

プレイガイド ●電子チケットぴあ ☎0570-02-9999 [5/17(Pコード132-069)] [6/14(Pコード132-072)] [7/12(Pコード132-073)]  
●愛知芸術文化センタープレイガイド ☎052-972-0430

■5月16日(木)第168回定期演奏会プレイベント ■7月10日(水)第170回定期演奏会プレイベント 入場無料・先着200名

会場／名古屋文理大学文化フォーラム ☎0587-24-5111 ●10:30～11:20「公開講座」小ホール ●12:00～13:00「公開リハーサル」大ホール

お問い合わせ・  
チケット取扱い

## セントラル愛知交響楽団

☎052-581-3851 <http://www.caso.jp>

(10:00～17:30/土日祝休)

チケットはホームページからお申込み頂けます。



主催／一般社団法人セントラル愛知交響楽団

共催／中日新聞社

後援／愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会・@FM

協賛／名古屋市美術館

[指揮・チェンバロ] **中野振一郎** (168回~170回)

Shinichiro Nakano/Conductor&Cembalo

1986年桐朋学園大学音楽学部の演奏学科(古楽器専攻)を卒業。1990年に大阪で開いた4回連続の独奏会「ヨーロッパ・チェンバロ音楽の旅」により「大阪文化祭金賞」等を受賞。翌年7月にはフランスの「ヴェルサイユ古楽フェスティバル」のクーブラン・サイクルに出演。ケネス・ギルバートやボブ・ファン・アスベルンら欧米を代表する名手と肩を並べ「世界の9人のチェンバリスト」の一人に選ばれる。1992年「パークレー古楽フェスティバル」で最年少の独奏家として招かれる。2003年「パッサ・フェスティバル ライブツィヒ2003」に出演。2004年7月から8月に掛けて行ったドイツでの単独リサイタルツアーが現地で大絶賛され、同年10月に日本で開催したリサイタルが「平成16年度文化庁芸術祭・大賞」を受賞した。2009年アジア最大級の音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」に初出演。「パーセル作品集」で第47回レコードアカデミー賞(音楽史部門)に輝く。2010年チェンバロ演奏のための手引書「チェンバロをひこう」(音楽之友社)を出版。毎年、音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」(東京ほか)では個性的なリサイタル・プログラムを披露し好評を博している。近年は、幅広いレパートリーと楽しいトークによるレクチャー・リサイタルも日本各地で高い人気を呼んでいる。京都市立芸術大学、名古屋音楽大学等で後進の指導にも励んでいる。

[トランペット] **オットー・ザウター** (168回)

Otto Sauter/Trumpet

オットー・ザウターはドイツ出身の世界的トランペット・ソリストとして知られる。ピッコロトランペットのスペシャリストとして殆どのメジャー・コンサートホールに出演するとともに、チャールズ皇太子臨席のもとフィルハーモニー管弦楽団とセント・ジェームス宮殿において、ヨハネ・パウロ2世の御前でサン・ピエトロ広場において、北京の紫禁城などにおいて演奏している。

1988年から1998年までプレーメン州立フィルハーモニー管弦楽団首席トランペット奏者。1991年「インターナショナルトランペット・デイズ」を開設し、レイ・チャールズ、メイナード・ファーガソン、モンセラート・カバリエ、モーリス・アンドレなどがゲストとして登場した。1994年、若手トランペット奏者のための「国際トランペットアカデミー」を設立。2014年には「世界及びヨーロッパ吹奏楽協会」を設立し、音楽祭、オーケストラ、大学、研究施設とワールドワイドに連携し、マスタークラス、コンサート、専門家による意見交換等を通じて吹奏楽を支援している。また「ヴァルトブルク音楽祭」、ローマとヴァチカンの国際的な合唱音楽祭である「ムジカ・サクラ・ア・ローマ」の芸術監督に就任、子ども向けテレビ番組シリーズとともに「リトル・アマデウス・ライブ」コンサートシリーズを開催、FIFAワールドカップ2006に際して「プレイタイム・ライブ・シティ・コンサートツアー」を開催している。2014年にはルルトヴィヒ2世で有名なノイシュヴァンシュタイン城における音楽祭の芸術監督も務めた。

主な共演相手として、ブラハ放送交響楽団、中部ドイツ放送交響楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、マルメ交響楽団、ボン・ベーターヴェン管弦楽団、バッハコレギウム・ライプツィヒ、シンフォニア・ワルシャワ、ミュンヘン室内管弦楽団、アマゾナス・フィルハーモニー管弦楽団、キエフ・フィルハーモニー管弦楽団、エディター・グルベロヴァ、ホセ・カレラス、ゲスタ・ヴァンベルク、イーヴォ・ボルゴレッツィ、エレナ・バシキローヴァ、ズーピン・メータ、ダニエル・パレンボイム、ミクス・テオドラキスなどがある。

[リコーダー] **鈴木俊哉** (168回)

Tosiya Suzuki/Recorder

アムステルダム音楽院卒業。リコーダーを花岡和生、W.ファン・ハウヴェに師事。リコーダーの可能性と技術の開拓に取り組む。L.コリー、B.ファーニホウ、L.フランチェスコニ、原田敏子、細川俊夫、伊藤弘之、野平一郎、S.シャリーノ、湯浅譲二といった作曲家たちと共同作業をおこない、彼等の作品を初演する。ウィーンモデルン、チューリッヒ新音楽の日、ガウデアムス(Amsterdam)、ダルムシュタット、ISCM世界音楽の日々(1995,2000,2001,2002)、秋吉台、パリの秋、武生、ロワイヨモン(Voix Nouvelles)、コンボージアム、ヨーロッパ・アジア国際現代音楽祭(Kazan)、クランク・シュプーレン(Schwaz)、トンヨン、フェスティバル・ア・テンボ(Caracas)、メルボルンR.C.オープニングフェスティバル、ルーマニア国際現代音楽祭、アジア・ゴ音楽祭、サントリーサマーフェスティバル、中国・アジア音楽週間(南寧)、ニューージーランド・フェスティバル(Wellington)、Etching Festival(Auvillar,France)、Melos-Ethos(Bratislava)等の音楽祭にソリストとして参加。ヨーロッパ、アメリカ、アジア各地で現代奏法に関するワークショップやリサイタルを行う。2002年のダルムシュタット夏期講習会講師。東京都交響楽団、セントラル愛知交響楽団等と共演。また、京都府教育委員会の派遣講師「夢大使」として子供たちにもリコーダーを教え、京都府の各小学校だけでなく、国内や台湾の小中学校でも教える。ソロCD「Tosiya Suzuki Recorder Recital」はドイツの音楽ジャーナル、音楽と美学協会よりMusic & Ästhetik Interpretationsprize 2003を受賞。他に、名古屋市民芸術祭賞、ダルムシュタット奨学生賞、クラウン・ニッヒシュタイナー音楽賞、第24回中島健蔵音楽賞、第1回創造する伝統賞、第14回佐治教三賞を受賞。エリザベト音楽大学特別講師。www.tosiyasuzuki.com/

[リコーダー] **田中せい子** (168回)

Seiko Tanaka/Recorder

12歳よりリコーダーを専攻し、上野学園中学、高校リコーダー科を経て、同大学器楽科を卒業。リコーダーを島田暁子、故・多田逸郎、山岡重治に師事。アムステルダム、スヴェーリンク音楽院に留学、ヴァルター・ファンハウヴェに師事。教授者および演奏家ディプロマを取得し同音楽院を卒業。オランダ留学中よりヨーロッパ及び日本で演奏活動を行う。これまでにリモージュ・バロックオーケストラ(C.コアン主宰)、アンサンブル・エリマ(G.ガリード主宰)等、ヨーロッパの主要な古楽オーケストラやジョヴァンニ・アントニーニ、ヴァルター・ファンハウヴェ、ケース・ブツェ等世界的リコーダー奏者とも共演している。1997年よりイタリア在住。リコーダー教育活動も活発に行っており、上野学園大学、ヴァレーゼ音楽院、ミラノ音楽院講師を経て、現在は「Studio Fontegara(ストゥディオ・フォンテガラー)」主宰。ミラノと東京をベースに活動している。2018年にはケース・ブツェ、ヴァルター・ファンハウヴェ、ダニエレ・ブラジエッティと共にリコーダーカルテット「オリブ・コンソート」を結成し、イタリア各都市で旗揚げ公演を行った。「オリブ・コンソート」は2019年12月来日予定。

**セントラル愛知交響楽団**

Central Aichi Symphony Orchestra

1983年ナゴヤシティ管弦楽団として発足。1990年から岩倉市の事業補助を受け、1997年セントラル愛知交響楽団と改称。2009年4月一般社団法人となる。2019年4月、5年間にわたり音楽監督を務めたレオシュエ・ワロフスキーは名誉音楽監督に、そして新たに常任指揮者として名古屋出身の俊英 角田鋼亮が就任。

定期演奏会、コンチェルトシリーズ、「第九」演奏会等の自主公演の他、バレエ、オペラ、ミュージカル等の依頼公演にも数多く出演。独自の構成によるプログラム、幅広いレパートリーを生かした学校公演、演奏者と聴衆の距離を縮めるような室内楽公演にも積極的に取り組み、年間約100回の公演はいずれも好評を博す。また2015年半田市と音楽文化振興の協定を締結し、以降さまざまな事業を展開。海外では2007年中国内モンゴル自治区、2009年タイ・バンコク(文化庁国際交流支援事業)、2017年韓国・釜山(釜山マル国際音楽祭)で公演し成功を収める。

1996年「平成7年度愛知県芸術文化選奨文化賞」、2005年「平成16年度名古屋芸術奨励賞」、2007年「第2回名古屋音楽ペンクラブ賞」受賞。

座席表

